アームズ

蒼葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
アームズ

【Ｎコード】
Ｎ８０４５Ｆ

【作者名】
蒼葉

【あらすじ】
俺は、この世界が嫌いだ。武力でコントロールされた世界を変えようとする相原とその他大勢の仲間のファンタジー

第一話危険な付き人

俺は、この世界が嫌いだ。
国が兵器を平気でほかの国に向け、脅す。
どこの国も、敵としか思えていない。
世界は、無駄な争いを起こし、無駄な血が流れる。
世界は、武力でコントロールされる時代になったのだ。
だから俺は、変えようと思った。この世界を、

ここは、海上に浮かぶある工場である。
中にはよくわからない機械が置かれており、そこで少年たちはごそごそと何かをしていた。
「相原さん、爆弾の設置が終わりました。」
相原と呼ばれる少年は、人差し指を口に当ててしーっと声を出す。
「馬鹿、大きな声を出すな、見つかったらどうする。」
正彦は、自分の手で口をふさぐ。
「すっすいません」
「でっ、あと何分で爆発するんだ？」
「三十秒」
「・・・・秒単位！？」
正彦の顔面を思いっきり殴ってから、逃げ出す。
「なんで秒単位なんだよ」
「だって・・・・・デンジャラスじゃない」
「もー、ホンットに馬鹿！！」
何でこいつを連れて来たんだろうと、今更後悔した。
全速力で工場内を走り抜ける。
「くっくそ、無駄に広いなこの工場」
「僕達の命運は尽きました」
「お前のせいだろッ地獄へ行ってても呪ってやるからなー」

やっと出口が見えたが、爆発三秒前だった。
「おーこの間に合うか間に合わないかの、この絶妙なデンジャラスを体感したかったんですよ僕は」
正彦は、ハラハラした口調で言う。それに対し相原は、
「もうお前黙って、お願い」
死にかけ口調で言うのだった。・・・実際死にかけているんですが・・・
出口から出た瞬間、後ろから爆発音が鳴った。それはもうどかーんと、
「海に飛び込めー」
二人は、勢いよく海に飛び込んだ。
「ぶはーーーー」
二人は海から顔を出す。
「あー、はっはっはっは、なかなか楽しかったですね、相原さん」
「・・・・・ふざけるな、さっきのはマジで死ぬかと思ったぞ」
「結果的に生きているんだからいいじゃん」
「そういう問題じゃない」
相原は、がっくしと肩を落とす。
さらにキラキラ目を輝かす正彦は言う、
「ほらっあれかな、こんな火災があったらポリスマンとかが動くのかな、ポリスマンと鬼ごっこしたいなーねえねえ」
「これ以上俺にどんなスリルを味わえと言うんだ。そんなん帰るよ俺、ポリスマン？そんなの知ったことじゃない」
「えーつまんないつまんないつまんない」
ついにブーブーとブーイングをしだした正彦だった。
「うるさい、鬼ごっこなら一人でしてこい」
「えーだって、身代わりの人いるじゃん」
「いるじゃんじゃない、ていうか俺を身代わりにする気だったのか。・・・・・いやっそんな事はどうでもいいとりあえず陸に上がろう。」

まだブーブー言っている正彦を無理矢理陸に上がらせた。
陸に上がると、正彦の待ち望んだポリスマン＝警察がいた。
「・・・・・・・・まじ！？」

一話危険な付き人　完

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8045f/

アームズ

2010年10月15日07時18分発行